「開発のための教育」と海外での取り組み

「開発のための教育」とは、よりよい未来を協力して切り開いていく（＝開発）ために、子どもたちが地球市民としての考え方や態度を身につけることを目的に、ユニセフが推進している教育です。開発途上国の問題や地球規模の経済格差や不均衡な関係を学ぼうという先進工業国で始まった「開発教育」と、途上国の中で起こってきた貧困や栄養不良、非識字などの諸問題を自ら解決しようという自助努力のための教育、双方の流れをうけて1990年頃からその重要性が唱えられるようになりました。21世紀に向けた教育とは、子どもたちが地球規模の問題を解決していくための教育であるべきだとの考えから、ユニセフでは「開発のための教育」の実践ガイドブックなどを作成し、具体的な取り組みを行っています。このコーナーでは、ユニセフの「開発のための教育」会議と参加国の活動事例などをご紹介します。

ユニセフの開発のための教育
A4版
1冊100円
参加型・体験型の活動を通じて「地球市民」としての考え方や態度を養うための、さまざまなアクティビティを紹介した指導者向けガイドブック。

1992年、ユニセフは執行理事会において、地球的な課題に対して若い人達を巻き込む方法として「開発のための教育（Education for Development）」の有用性を確認し、これを推進することを決定しました。この決定は、1990年「子どものための世界サミット」の宣言に沿ったもので、また「児童の権利に関する条約」を奨励するのに大切な役割を果たすと認識されてのことです。その後ユニセフ本部は、（財）日本ユニセフ協会のような37のユニセフ国内委員会と連携して、「開発のための教育」担当官を召集する会議を2年から3年に1度の頻度で開催しています。

この担当官会議が今年の2月初めて東南アジアで開かれました。タイのバンコクで開かれた今回の会議には、16ヶ国20人が参加しました。会議の狙いの一つは、ユニセフの支援事業が現場でどのように実施されているかを見聞することでした。参加者はこの会議に参加する前に、ユニセフの国別事業をタイ・カンボジア・ミャンマー・ラオスでグループ別に視察し、その結果をそれぞれの国内委員会の「開発のための教育」の中でどう展開するのかを討議しました。また、それぞれの国の年度計画についても情報の交換をし、共通の企画の場合は情報交換をさらに進めて、お互いの事業の効率化を図ることを確認しました。

会議で報告された各国での「開発のための教育」事例です。

韓国の活動：2002年FIFAワールドカップ™を記念した裸足のユニセフ・ウォーク

今年の4月20日、韓国ではワールドカップサッカーを記念した「開発のための教育」関連の行事が、韓国国内委員会とFIFAの共催で実施されました。この行事では、2,000人ほどの人びと―おもに子どもたち―が、開発途上国で厳しい生活を強いられている子どもの状況に関する理解を深めるために、裸足でソウルの山道を歩きました。子どもたちが親と一緒に3.4kmの道のりを「セイ・イエス・フォー・チルドレン」の10の目標を記した旗を抱えて歩いたのです。この活動では、サッカーとユニセフ・ウォークが共に野外活動であるという共通性をとらえた点で、子どもの精神的・身体的発育に寄与すると、参加者から好評を得ました。また、参加者や協力企業から34,000ドルが募金としてユニセフに寄付されました。

©Korean Committee for UNICEF

フィンランドの活動：ユニセフ・ウォーク

©Finland Committee for UNICEF

フィンランドでも、困難な状況にある子どもたちを同じ子どもたちが支援することを目的に、フィンランド国内委員会の呼びかけに応じて多くの小学校が毎年5月頃にユニセフ・ウォークを実施しています。子どもたちはユニセフ・ウォークを開始する前に、歩いた距離に応じた募金をしてくれるスポンサーを探します。たいていの場合、両親や親戚が協力してくれます。イベントの当日参加カードを受け取り、1kmごとにポイントに待機している先生や親たちにシールを貼ってもらいます。ユニセフは子どもの権利に関する資料を提供し、子どもたちに世界の子どもたちの置かれている状況や、ユニセフの活動に関する理解を深めてもらいます。「もしユニセフの仕事とビジョンに共感したなら、今度はあなたがユニセフのために行動しよう！」というメッセージのもと、2000年には約40,000人の子どもたちがユニセフ・ウォークに参加し、平均で5～8km、中には何と18kmも歩いた男の子がいました。

ギリシャの活動：異文化交流フェスティバル

©Hellenic Committee for UNICEF

ギリシャ国内委員会は毎年12月に異文化交流フェスティバルを開催し、相互依存、ボランティア精神、社会正義の促進に努めています。ギリシャに暮らす少数民族の子どもや難民の子ども、他国から来た子ども、困難な状況にある子どもや弱者の立場にいる子どもたちもこの交流に参加し、ゲームや催し物を楽しみます。教育関係者や芸術家が、子どもたちの参加や子ども同士の経験の交換を促進する企画です。